

刑務所における受刑者の就労支援希望の申し出促進策

【応募代表者】法務省矯正局 鈴木 貴之 総務省行政評価局 菊池 明宏

【実施フィールド】刑務所5施設

https://www.moj.go.jp/content/001396274.pdf

本プロジェクトの概要

課題

- 受刑者の再犯防止のためには就労が重要であるため、刑務所等では、受刑者に対する就労支援サービスを任意で実施している。
- しかしながら、就労支援サービスを利用する受刑者は、出所受刑者全体の約2割程度にとどまっている。

分析

- 「BASIC」の考え方を基に、**刑務所職員や刑務所出所者等へのヒアリングを行い、就労支援サービス利用までのジャーニーマップを作成、サービス利用に至るまでの課題を整理し、行動科学のハーディング効果等を活用したチラシを開発した。**
- 刑務所5庁の工場を単位とした**クラスターRCT**を実施し、チラシ配布の効果をアンケートにより測定した。

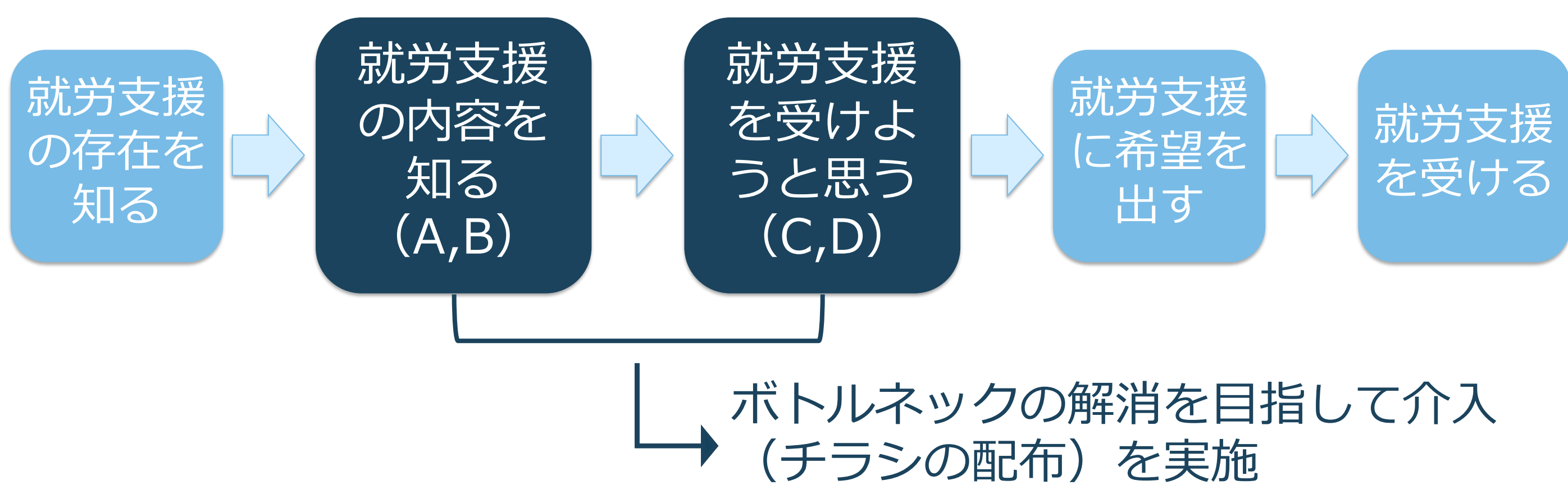
結果

- 【就労支援の利用希望を促す効果について】
 - 係数の値は3.0ポイントであったが、**p値の値は0.243と大きく、「就労支援を受けることを希望する」に対する介入効果があったかどうかは分からなかった。**
- 【就労支援サービスの内容理解を促す効果について】
 - チラシ配布によって**就労支援の内容理解が促されている。**
- 具体的には「**刑事施設にいたことを知られずに受けられる支援がある**」、就労支援に含まれる支援内容のうち「**1対1の就職相談**」「**あなたに合った仕事の探し方**」、そして「**就労支援の有効性理解**」については約5ポイント以上の介入効果が生じており、これらは統計的にも5%水準で有意な差となっている。

課題分析

◇ 就労支援を受けることを希望しない者の4点の特徴

- 就労支援制度の内容への理解度が低い
- 受刑歴を知られると不利益を被る可能性があると考え、出所後に自分で仕事を探すことを希望する
- 就労の当てがあると主張するが、その根拠が曖昧で見込みに過ぎない
- 生活保護や年金で暮らすことを希望する



▲就労支援が周知されてから受刑者が就労支援を受けるまでのボトルネックを整理した上で就労支援を受けることを促す取組を検討

ナッジの内容

1 就労支援のススメ 出所までの当たり前!!

2 チェックリストで確認しましょう!

3

4

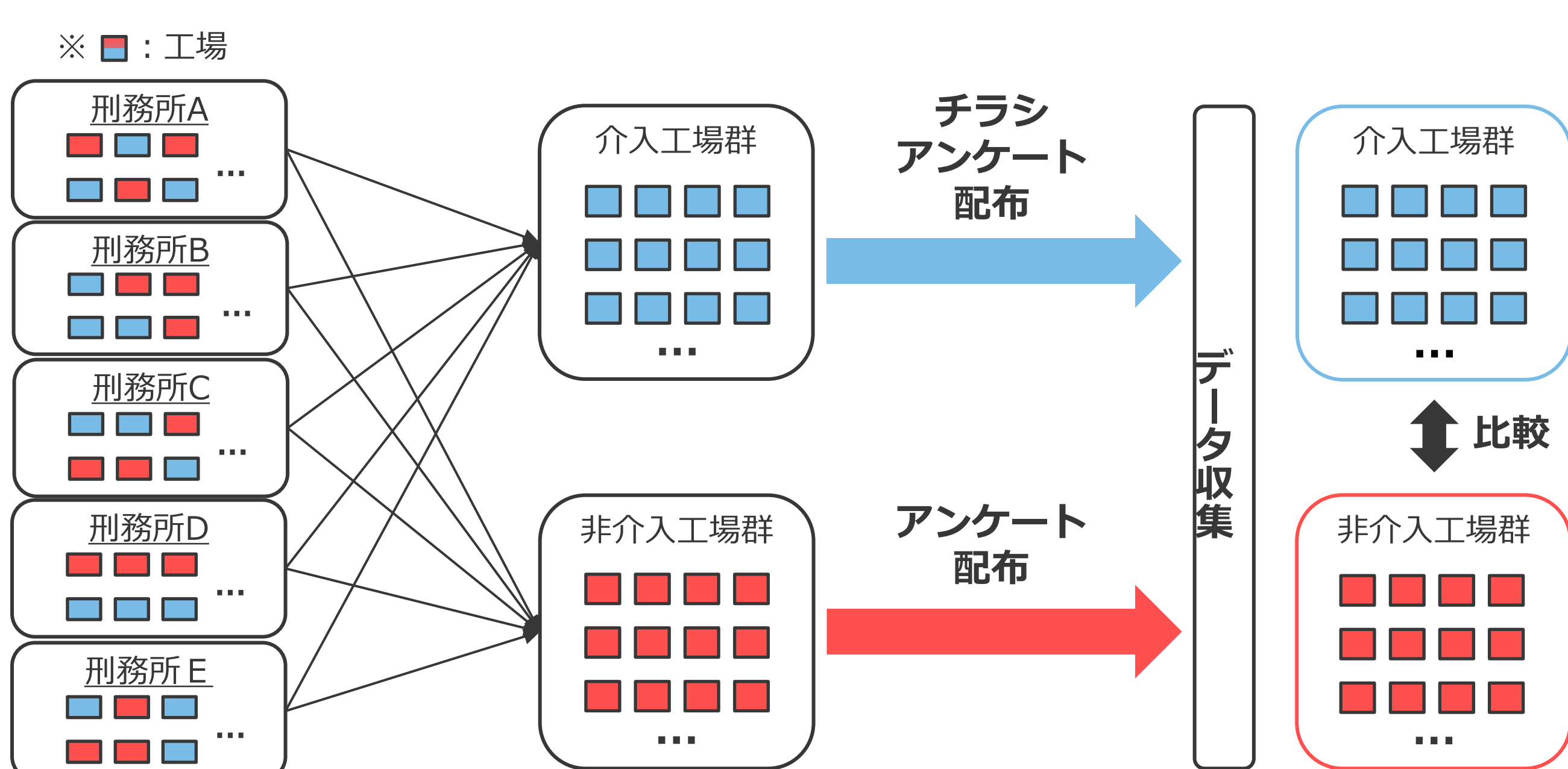
5

※「就労支援は希望を申し出ないと受けられません」(対象者は希望のうえで決定されます)

▲ チラシデザインの狙い (図内①～⑤)

- 明確なタイトル・キャッチフレーズ→関心を高める
 - マンガ→内容への興味を向上させる
 - チェックリスト方式の活用
 - 受刑者に向けた表現
 - 情報量を簡潔に1枚にまとめる
- +現場での実装を見据えた、カスタマイズしやすいデザイン

ナッジの提供方法



▲刑務所毎に、ランダムに介入工場と非介入工場を割付(層別ランダム割付)
 ※受刑者は、所属する工場をランダムに指定される(一部の受刑者を除く。)

アンケートの調査項目

質問項目	質問の意図
就労支援を受けることの希望有無	プライマリアウトカムの把握
就労支援を受けることを希望しない理由	就労支援を受けることへの意欲を妨げるボトルネックの把握(統制群のみ)
出所後の就労希望の有無	就労意識の変化(中間アウトカム)の把握
就労支援制度の内容について	就労支援に関する理解度の把握
就労支援のメリットについて	就労支援のメリットに関する認識の把握
就労支援に関する調査票の受領有無	本来、就労支援を受けることへの働きかけを行う対象であるかの特定
属性情報(年齢・残刑期)	効果の異質性の分析

詳細結果

質問項目	介入効果				
	統制群割合	(1)係数	p値	(2)係数	p値
プライマリアウトカム					
就労支援希望	39.4%	2.5	0.288	3.0	0.243
セカンダリアウトカム					
就労意欲	77.2%	2.2	0.205	1.8	0.211
就労支援の内容に関する理解・知識					
刑務所にいたことを知られずに受けられる支援がある	33.2%	9.2	0.000	8.8	0.000
就労支援に含まれる支援内容					
1対1の就職相談	52.4%	13.3	0.000	13.1	0.000
出所後の仕事の紹介	83.5%	0.8	0.723	1.0	0.596
あなたに合った仕事の探し方	50.5%	4.9	0.034	5.3	0.022
企業と所内で面接	60.5%	3.9	0.232	4.9	0.063
就労支援の有効性理解	65.4%	5.0	0.023	5.2	0.009
就労に対する見通しの甘さの自覚	48.2%	-1.3	0.716	-0.4	0.894
施設ダミー		Yes		Yes	
統制変数*		No		Yes	

*年代ダミー(20代、30代、40代、50代、60代、70代以上)、残刑期(対数値)

▲介入群ダミー変数、層別ランダム割付に用いた各層を示すダミー変数(具体的には各刑事施設ダミー変数)を説明変数とする回帰式を最小二乗法によって推定

結果・考察

- 配布したチラシに**就労支援の知識向上に一定の効果があることを確認したが、支援を受ける意欲を向上させるかどうかはわからなかった。(それはそれとして1つのエビデンスと認識。)**
- 課題の解決策を検討するための**探索的な分析も合わせて実施することで、次の介入方策の検討を行うことが可能となる。**
- 倫理面に関して、本取組では就労支援を受ける意向を問うだけであり、その回答によって実際の就労支援への参加が決定されることはなく、施設が希望した場合は統制群となった対象者にもチラシ配布の機会を設けているなど、不利益が生じないように配慮した。
- 刑務所等における効果検証の有利な点として、**①受刑者の属性情報等のデータが既に取得されている、②取組の対象者/非対象者を明確に定義しやすい、③受刑者間のコンタミネーションのリスクを最小化できる、④刑務所等の性質上、外部要因の影響を受けにくい、**といった有利な点があることが整理できた。